学校名（桜井市立織田小学校）

小学校
第5学年理科

単元名　雲と天気の変化

ICT活用のテーマ　衛星画像から明日の天気を予想しよう

本時のねらい

衛星画像を見て根拠をもとに明日の天気を予想する

ICT活用のポイント

「天気は西から東へ変わる」という基本的な考え方を使いながら、根拠を明らかにして予想を説明することで理科の「見方・考え方」を働かせる事例である

事例の概要

- 雲の動きについて確認する
- 衛星画像から明日の天気を予想して書き込む
- 全体で共有する
- 実際の天気を確認する

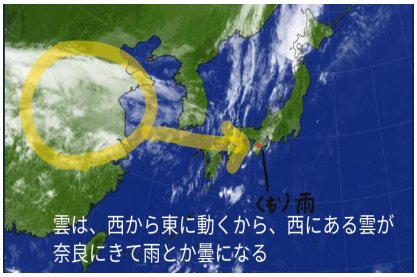
・衛星画像をもとに明日の天気を予想する場面を考える。
・気象衛星画像を一人一人の児童へ配信し、児童はその画像に予想と根拠を書き込み提出する。それを共有することで児童は自分の考えと他者の考えを比べることができる。
衛星画像を児童それぞれに送り、そこに予想と根拠を書き全体で共有させることで、自分の考えと他者の考えを比べることができるように工夫する。

先生の声

今までは衛星画像を大きな画面で見せてどうなるか予想していたが、1人1台端末では画像をよく見ることができ、一人一人の多様な考えを導き出すことができた。また、児童の考えを一度に共有することができるので、自分の考えと他者の考えを見比べることが容易にできていた。

子どもの声

・本当のお天気のアナウンサーになった気分でした。
・結果は外れたけれど予想するのが楽しかった。
・本当のニュースを見るときに役に立ちそう。
・天気のことをもっと知りたいと思った。



効果的に活用するためのポイント

最後には実際の天気の正解を発表するが、さまざまな要因によって天気は変わるので、衛星画像だけでは推測することは難しい。しかし、児童の手元に全員分の考えが共有されることで、そうした気付きを児童自身が得ていくことにつながる。これだけでなく今後、さまざまな天気の画像（衛星画像やアメダス等）を提示することによって考えが広がり、実際のニュースの天気予報の見方を考えるなど、主体的な力に結びつくと考える。

デバイスに衛星画像を配信することで、一人一人が、その衛星画像を基に予想した明日の天気を根拠を示しながら書き込むことができます。雲がどちらの方に移動するかを矢印で示したりするなど、根拠を図で表すことができ、自分の考えをより他者に伝えやすくなります。また、デバイスを活用して考えを共有することで、様々な考えに触れることができ、自分の考えを広げたり深めたりすることができます。

学校名（川西町立川西小学校）

小学校
第5学年外国語科

単元名　When is your birthday?

ICT活用のテーマ　音声録音機能を活用して英語表現に慣れ親しむ

本時のねらい

誕生日カードを作る活動をとおして、誕生日を尋ねたり、聞き取ったりすることができる

ICT活用のポイント

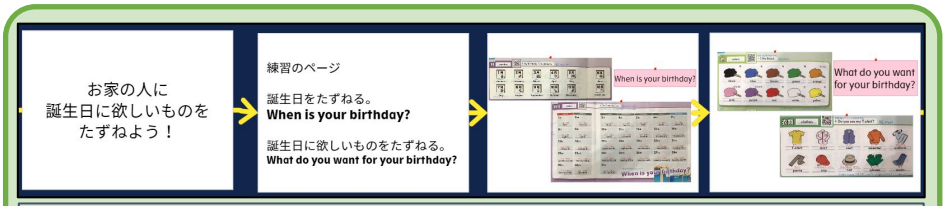
音声録音機能を活用して、授業で学んだ表現を時間や場所に縛られることなく練習できるようにし、より英語表現に慣れ親しめるようにする。聞き取った家族の誕生日やプレゼントでほしいものは、選択肢の中から選んでもらうことで、学級で共有したり、発表したりできるようにカードに工夫をした。

事例の概要

授業
- When is your birthday? の表現を学習しカードに録音する。
- 録音した表現を聞き、正しい発音に近づけるように練習する。

家庭
- 家族に誕生日とプレゼントでほしいものを尋ねる。

授業
- 誕生日カードを作る。



児童に配布したデジタルノートのカード
2枚目には表現を書き、授業中に全員で録音している。家庭で尋ねる前に練習できるようにしている。
3、4枚目は家族に聞いた誕生日とほしいものを丸で囲むことで記録ができるように工夫している。

英語の表現は授業で学習する以外に、日常で使用する機会は多くない。家族に誕生日とほしいものを尋ねる活動を設定することで、英語の表現を使う機会を作り出した。また、ICT活用の大きなメリットは音声を録音できることにある。学校で練習した音声を録音することで、家庭でも繰り返し聞くことができ、家族に聞く前に自分でも練習できるように工夫している。

先生の声

英語の学習とICTはすごく相性が良いと感じている。今回は授業中に学級で練習した児童の声を録音したが、ALTの音声を録音して、より正しい発音を聞くことができるようにする工夫も考えられる。

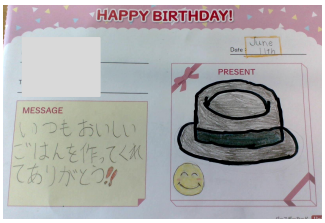
活動の意欲を高めるために家族に渡す誕生日カードを作るが、そのことは内緒にするようにする。今回の実践は、5年生で本格的に始まる外国語の学習の様子を家族にも知ってもらうよい機会にもなる。

子どもの声

＜英語を使うことに関して＞
- 家族に英語で質問するのは初めてだったけど、聞いたことに答えてくれてうれしかった。
- 欲しいものを2つ言われたときにどう書けばいいか分からなかったけど、「andを使ったらいいよ」と家族に教えてもらえた。
- カードの録音を聞くことで質問の練習ができたので、自信をもって聞くことができた。

＜家族とのコミュニケーションに関して＞
- 誕生日カードを渡したら喜んでくれた。
- 今回はお母さんに聞いたけど、次は弟に聞いてみようと思う。

＜ICTの活用に関して＞
- カードに録音したものを聞くことができたので、家でも困らなかった。



効果的に活用するためのポイント

- この活動までに、学校では友達同士で誕生日を尋ねる表現、ほしいものを尋ねる表現の練習を繰り返ししている。家族に聞くときに、表現に不安がある場合には聞くことができるが、その音声が「自分たちのもの」というのがポイントとなっている。
- 今回の場合、月と日付の表現は数が多いので、音声を録音しておくことで家庭でも英語表現を聞くことができ、家族の言ったことを聞き取る練習ができる。
- 聞き取った内容をどのように記録するかについても、イラストを丸で囲むようにしたので、シンプルで分かりやすくできた。

授業で学習した英語が教室外でも伝わる経験は、児童が学ぶ意義を感じ、意欲を引き出す有効な手立てとなります。一緒に過ごすおうちの方との英語でのコミュニケーションは新鮮で、児童の自信につながる活動になっています。

ICTを活用して何度も語彙や表現を聞いたり話したりできるようにすることで、扱う語彙が多い単元でも納得いくまで練習できるよう工夫している好事例です。

学校名（平群町立平群小学校）

小学校
第5学年特別活動

単元名　ネットやスマホとの付き合い方

ICT活用のテーマ　グループごとの意見をまとめ、相互参照しよう

本時のねらい

動画教材を見ながら、ネットトラブルの原因や改善方法を見つけよう

ICT活用のポイント

デジタルノートの共有機能を使うことで、各グループで話し合った内容を随時閲覧できるようにし、他のグループの考えを参照しながら学習を進めることに役立てる

事例の概要

動画教材（前半）を視聴

グループで話合い

発表・意見交流

動画教材（後半）を視聴

・5年生の情報モラルの学習として全4時の授業を行った。ここで示しているのは、第1時「ネットとスマホとの付き合い方」、第2時「オンラインゲームの楽しみ方」、第3時「SNSの正しい使い方」に続く第4時の指導内容である。毎時の学習活動の導入では、クラウド上に記録された前時の児童の学習内容をスライドを使って振り返りながら授業を展開した。

・本時では、ネットトラブルの原因や改善方法をグループごとで話し合い、各グループの意見を共有機能を活用して随時閲覧できるようにし、考えを広げ深めさせた。

先生の声

「ネットでのトラブル」について学ぶことを通して、1人1台端末の安全な活用方法についても考えることができていた。また、学習展開で問題点⇒原因⇒改善点と自分の考えをもちながらグループで話し合うことで、主体的に学ぶことができていた。さらに、自分の考えを端末に記録しておくことで、いつでもどこでも確認することができていた。ICT機器を個別学習のために使うだけでなく、協働学習に使う手段として、今後も活用方法を検討していきたい。

子どもの声

授業後の振り返りより

・確かにずっとゲームしている。たまには外遊びでリフレッシュ
・正しい使い方を今知っておかないと後で後悔する。
・何分やるか決めてからやらないといけない。
・暇なとき、忙しいとき関係なくついつい（スマホを）触ってしまう。

効果的に活用するためのポイント

1人1台端末を使う時の約束はたくさんあるが、児童に考えさせたいことは、「学習のどの場面で使うのか」ということであると考える。活用場面を判断する大切さを、ICTを活用した学習で学ばせることが必要である。

共有ノートを使ってグループで意見をまとめていく中で、他のグループの途中経過を見ることもできた。教員も児童同士も学習状況を把握しやすくなると考える。

デバイスを活用していく上で、デバイスとの付き合い方に影響する情報モラルなどについての学習することはとても重要です。

本実践では、相互参照等により互いの思考を共有しながら自らの思考を深め、本時のねらいに迫っています。自分の生活を振り返り、ネットやスマホ等との付き合い方を考えることで、日々の生活に生かすことのできる好事例です。

学校名（大淀町立大淀希望ヶ丘小学校）

小学校
第6学年国語科

単元名　日本文化を発信しよう

ICT活用のテーマ　日本文化についての情報を調べ、デジタルノートで発表のカードを作成する

本時のねらい

「『鳥獣戯画』を読む」で学習した効果的な表現方法を使い、情報の集め方に注意しながら調べ、聞き手を意識した日本文化の発表をすることができる

ICT活用のポイント

参考資料一覧の作成や、情報の集め方などを意識しながら調べ学習をすることができる。また、発表内容に合ったもので、聞き手を意識した発表カードを作ることができるように工夫する。

事例の概要

- 情報の集め方、参考資料の扱い方について考える
- 発表したい日本文化について調べる
- 聞き手を意識した発表原稿、カードを作成する
- 発表する

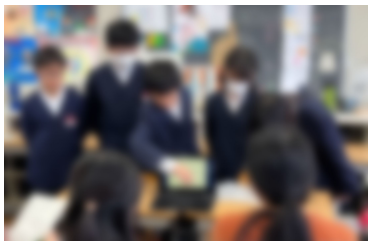
・インターネットで日本文化について調べる中で、どのような情報を手に入れることが適切なのか、信頼性はあるのか（公式サイトの意味）などを考え、参考資料として必要な情報を意識しながら、調べ学習に取り組める事例である。
・発表原稿を作成する時に、引用する箇所などを考えながら、書くことができるようにする。
・デジタルノートを使って、聞き手が画像やイラストからも想像できるように発表カードを作成するようにする。

先生の声

インターネットを用いて情報を得ることが多い時代において、書籍だけを用いた調べ学習では、子どもたちに正しい情報の扱い方を身に付けさせることが難しいと思われる。
ICTを活用して発表資料を作る活動を通して、引用の仕方、情報の集め方など、実際の情報の扱いを学ぶことができていた。

子どもの声

・著作権の大事さや重要さも改めて分かった。
・いろんな情報があってどれを入れるか迷ったけど、なるべく資料がついているものを入れるようにした。
・発表カードがあることで、相手をもっと話に引き込める発表になった。
・説明に使う文章を調べた中から引用することができた。



効果的に活用するためのポイント

インターネット上の情報の信頼性や公式サイトの意味を理解していない児童が多いため、調べ学習に入る前に、どんなサイトの情報が、参考資料として適切なのかを例示したり、参考資料の作成の仕方を丁寧に伝えたりすることが大切である。
発表カードの作成については、画像の配置が難しかったとの児童があった。相手に理解しやすい構成や配置を意識して、試行錯誤することが大切である。

効果的な表現方法を使って、情報の集め方に注意しながら調べ、聞き手を意識した発表ができることをねらいとした国語科におけるICT活用の実践です。
伝える情報の信頼性や著作権について学ぶ際は、単に知識としてだけ身に付けるのではなく、本実践のように実体験を通して学ぶことが重要です。

学校名（大淀町立大淀希望ヶ丘小学校）

小学校
第6学年社会科

単元名　弥生時代の争いの様子を調べよう

ICT活用のテーマ　デジタルホワイトボードで資料を見ながら意見を出し合う

本時のねらい

米作りの始まりと争いの関係性や、争いの様子などを、資料から読み取りまとめる

ICT活用のポイント

資料の細かい所まで見ることができ、グループで意見を共有しながら、考えたいことを深めていくことができる

事例の概要

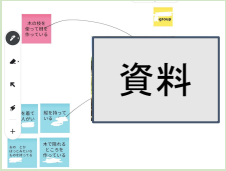
前時の振り返りをする

本時の課題をつかむ

資料からわかることをグループごとに付箋に書き出し、整理する

本時のまとめをする

・中心となる資料のみを載せることで、細かい所まで見ようとし、様々な意見を共有し、深めることができる事例である。
・デジタルホワイトボードを活用することで、実際に付箋に書くよりも素早くたくさん意見を出すことができる。
・みんながどんな意見を書いているのか、すぐに見ることができる。

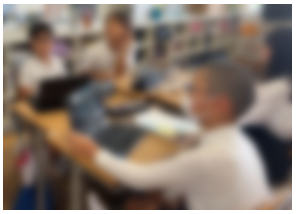


先生の声

リアルな付箋に書き込み、意見を出す方法よりも、書き込みがスムーズに行え、児童自身も気軽にたくさん意見を出し合えている様子だった。また、教科書では、様々な資料が同時に視界に入ってくるため、集中して1つの資料をじっくり見ることができない子がいるが、資料を絞って提示することで、より深く資料から読み取ろうとすることができていた。

子どもの声

・手で書くよりも、打つ方が得意だから、意見をいつもより言いやすい。
・他の人の意見をすぐ見れるから、そこから繋げて考えることもできた。
・付箋の色を変えられるから、似ているもの同士を整理しやすい。
・資料のここを見てほしいという時に、デジタルホワイトボードなら資料に印も入れられるし、それと付箋をつなげることもできるから便利。



効果的に活用するためのポイント

今回のねらいは、グループで意見を共有し、まとめることをねらいとしているので、グループごとにデジタルホワイトボードのシートを作った。しかし、ねらいがクラス全員で共有することなら、シートは1枚の方が適切であると思う。単に、付箋をたくさん出して意見を書き込むだけでなく、どんなねらいをもつかによって、シートの区分けなども変わってくると感じたので、シートの使い方の工夫は必要であると考える。

従来の資料提示のためのICTの役割に加えて、１人１台デバイスによって、共有した資料に子ども１人１人が直接書き込み、書き込まれた意見について交流することができるように授業が組み立てられています。
資料から読み取れたことを瞬時に共有し、内容によってグループ分けすることにより、効率よく思考を促しています。

学校名（大淀町立大淀希望ヶ丘小学校）

小学校
第6学年算数科

単元名　円の面積の求め方を考えよう

ICT活用のテーマ　図形に書き込んで面積の求め方を考えよう

本時のねらい

円を含む複合図形が色々な図形と組み合わさっていることに気づき、それについて説明することができる

ICT活用のポイント

既習事項を想起し、補助線を引けば、簡単に面積を求められることに気付かせる

事例の概要

前時を振り返る

円の四分の一の面積を求める問題を解く

複合図形問題を解く

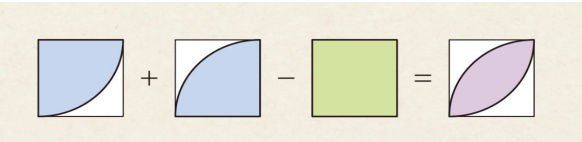
説明する

・課題を色分けして可視化することで、図形の重なりに気づきやすいと考えた。またICTを使って問題を提示しつつ、児童の机には問題と同じ図形（セロハン）を準備した。

・補助線を引いてできあがる図形から足したり、引いたりすることで複合図形の面積を求められるという見通しを持たせた。
・次の授業では、ベネッセによる学習探検ナビを使い、どのような図形が重なっているのかを説明させた。
・児童の話合いから違う求め方があることにも気付くことができた。

先生の声

複合図形に気づくことができない児童や、図形の重なりをイメージしにくい児童もいたがICTを活用することにより、補助線が明確になった。また簡単にやり直しができるので子どもたちの思考を促す手立てとなった。



子どもの声

・複合図形は、どのような図形が重なっているのか考えることが難しかったけれど、1つ考えがまとまると違う考えも思いついた。
・みんなで話し合うことでいつもは諦めてしまいそうな内容でも最後までがんばることができた。

・セロハンは透けるから図形の重なりがよく分かった。

効果的に活用するためのポイント

ICTだけでなく、セロハンで作った手作り教材は有効的だったと考える。両方準備することで児童たちは選びながら自分に合った個別最適な学習をしていたと感じている。

また、学習のまとめでICT支援員の方と共同して図形をデジタルノートに準備して動かす課題も効果的だった。

デバイスを使用するだけでなく、具体物も使って、課題に取り組むことで、複合図形の構成について理解を促しています。

説明する場面で、必要なパーツを簡単に複製でき、ノートに図形をかく必要がなくなるので、児童は面積の求め方の説明に集中できるとともに考える時間を多くとることができます。

児童自身が試行錯誤するのに、１人１台デバイスが効果的であることを示す好事例です。

学校名（葛城市立新庄小学校）

小学校
第6学年算数科

単元名　角柱と円柱の体積

ICT活用のテーマ　学び合い＆自由進度学習（自己選択）

本時のねらい

三角柱の体積の求め方を考え、求めることができる

ICT活用のポイント

1人1台端末により、課題を自己選択して学習を進めることが容易になった。本単元では、児童たちが自分のレベルにあった課題を選択し、自由に学習を進めていく自由進度学習を行った。

事例の概要

本時の課題をグループで解決する。	15分
復習問題に取り組む。（デジタルノート）	5分
自由進度学習	20分
進度・理解度チェック	5分

・前半ではグループで学び合い、だれ一人取り残さない活動を行い、後半では一人一人のレベルに合わせた個別最適な学びを実現した事例である。
・本時の課題をグループ（3～4人）で考え、説明し合い解決する。その後、児童全員が、本時の目標にたどり着いているかを確かめるために、デジタルノートで復習問題に取り組む。
・自由進度学習では、一人一人が自分のレベルに合った課題を自己選択して学習を進める。（動画視聴や復習プリント、発展プリントなどを活用する。）
・授業の振り返りとして、今日の課題の理解度チェックや自由進度学習で取り組んだ課題をチェックする。

先生の声

学び合いや自由進度学習などの学習形態により、協働的な学びと個別最適な学びのどちらも実現することができた。
また、課題を選択することで児童一人一人が学びに責任をもって主体的に取り組むようになった。

子どもの声

【アンケート（児童30名）より】
○自由進度学習の方が楽しい……97%
・みんなで一緒に問題を解いたり、教え合ったりすることが楽しいから。
・自分のスピードで取り組むことができるから。
・自分に合った問題に取り組むことができるから。
○これまでより自分から進んで学習に取り組めた ‥93%
○これまでより理解することができた…… 90%
○自由進度学習の良さは何か。
・一人でじっくり考えたり、友達と教え合ったりできる。
・自分で課題を選んで取り組むからやる気が出る。
○自由進度学習の課題は何か。
・制限がないからどこまでやっていいのか分からない。
・友達と関係のない話をしてしまうことがある。

効果的に活用するためのポイント

・復習問題をデジタルノートで行った後、教員は、問題を間違えた児童を把握し、個別の支援を行う。
・自由進度学習では、児童が計画を立てやすくするために、復習タイプや予習タイプ、貢献タイプ、探求タイプを示した。復習タイプや予習タイプの児童は、1人1台端末で動画を視聴したり、復習プリントを解いたりする。貢献タイプや探求タイプの児童は、教え合ったり、オリジナル問題を作成したりする。オリジナル問題は1人1台端末により他の児童も挑戦することができる。

デバイスをグループ学習の場面や復習問題に取り組む場面に取り入れて教員が児童個人の問題解決の状況を把握することは効果的です。
ノートでは何冊も必要となるところ、問題データをクラウド上におくことで、デバイスで学習内容の蓄積が可能となります。自由進度学習は、１人１台デバイスを活用することが効果的です。

学校名（川西町立川西小学校）

小学校
第6学年理科

単元名　ヒトの体とつくり

ICT活用のテーマ　思考の変容を見取り、評価に生かすICT活用

本時のねらい

動画資料を見て、食べ物の通り道や変化についてまとめることができる

ICT活用のポイント

「資料調べ」として、WEBサイト上に掲載されている3本の動画を視聴して、学んだことをシンキングツールで整理をしていく。「胃→小腸→大腸・・・と動画を1本ずつ視聴してまとめる」という学習を繰り返すことで、スモールステップで学びを進めて行くことができると同時に、シンキングツールの変化を見取ることで児童の思考がどのように深まっていったのかを評価することができる

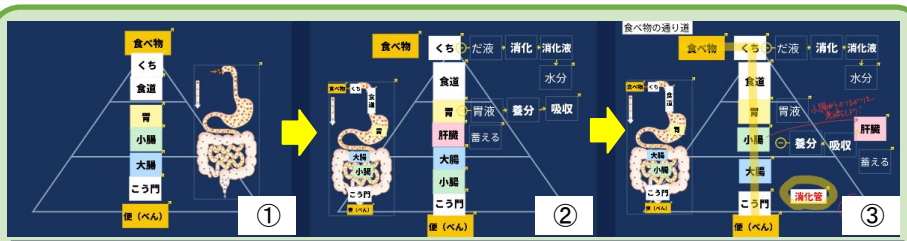
事例の概要

食べ物の通り道と変化についてわかったことをまとめる。

「①食べ物通り道」、「②食べ物の変化」、「③養分の吸収」の動画を視聴する。

3回繰り返す

提出されたシンキングツールを見比べ、よりわかりやすいまとめ方について話し合う。



児童が提出したシンキングツール
左が最初に提出したシンキングツール。動画を見るにつれて、少しずつ変化しているのがわかる。

2回上書きして提出させる方法は、思考の変化を見るのには最適である。動画視聴をして、得た知識を表現する機会を作ることができるのも良い点。人によって使うシンキングツールは自由に選ばせた。どのまとめ方であっても、要点を理解できているかを見取り、評価につなげることができる実践である。

先生の声

「動画を視聴するだけにならないようにしたい、学びを深め発信する機会をつくりたい」という考えのもと、この実践をした。

動画は、教科書のQRコードを読み取り、繰り返し視聴できるのが良いところである。自分のペースやもう一度見たいところは人によって様々だが、その点にも対応できる学習方法と言える。

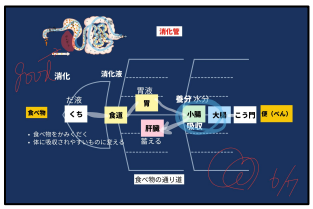
子どもの声

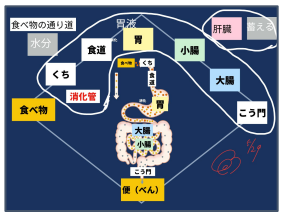
＜理科の学習に関して＞

・「パーツカード」を順番に並べることで、消化管の並び方を意識することができた。
・小腸で栄養が、大腸で水分が吸収されることも、「パーツカード」をそばに置くことでわかりやすかった。

＜ICT活用に関して＞

・「パーツカード」を並び替えるのは、やり直しがしやすくて便利でした。
・途中で友達の回答を見ることができるので参考にしました。

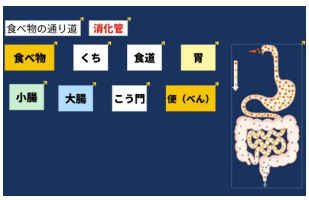




「パーツカード」の並べ方は違うが、消化管の順番やはたらきを意識できている。

効果的に活用するためのポイント

・視聴してまとめることが難しい児童もいることが考えらる。支援の手立てとして、動画で紹介されるキーワードを予め教師がまとめた「パーツカード」を必要に応じて使えるように準備を進めておくと、どの児童も要点をまとめることができる。



事前にキーワードをまとめて、「パーツカード」を作成しておく。全員に配布するが、使うかどうかは児童に判断させる。

・回答共有機能を使って、児童同士で提出されたシンキングツールを見ることができるようにすると、それを参考にする児童もいた。

動画を視聴してわかったことをまとめる際に、デジタル上のシンキングツールを用いることで、修正したり説明を書き加えたりすることが容易になります。支援の手立てとして臓器等を書いたパーツカードを用意したり、多様なまとめ方ができるようシンキングツールを選択させたりするなど、自分に合った方法でまとめることができるよう工夫されています。デバイスを活用することで、記録を蓄積し、学びの変容を見取ることもできます。

学校名（河合町立河合第一小学校）

小学校
第6学年理科

単元名　月と太陽

ICT活用のテーマ　自分の考えをわかりやすく伝える工夫をしよう

本時のねらい

月の形の見え方が変わるわけを見つけよう

ICT活用のポイント

月の形の見え方と太陽との位置関係について理解し、月の形の見え方が変わるわけを、アプリを活用しながら1分間の動画にわかりやすくまとめる

事例の概要

課題を知る

実験・探究

動画にまとめる

動画の共有・リフレクション

・月と太陽の位置関係を、モデルを使いながら視覚的に捉えることで、理解を促すことを目的にしている。
・ただ実験するのではなく、その結果を1分間の動画にまとめるという目的をもたせることで、児童が理解したことをアウトプットさせ、お互いの理解を深めるよう指導する。
・教科書などの情報から先に結論を示し、それを演繹的に根拠付けるための実験や探究活動としている。限られた時間で、目的に沿った探究をするための工夫である。

先生の声

この単元は、理科室ではなく、校内にある広いホールを使う。パーティションで区切って実験できる空間を確保し、児童には自由に探究できるよう環境を設定し、気軽に協働的な活動につながるよう配慮した。天体の学習は具体物を提示することが難しいため、どうしても一方的に教え込む形になってしまう。体験的に学ぶことで、興味をもたせ、主体的に学ぶことができるように授業を設計した。

子どもの声

・ワークシートでまとめて書いてる人と、1人1台端末や実物で動画を撮っている人がいてとり方が違うけど動画でとっている人の方が少しわかりやすかった。
・撮影をしていてとてもわかりやすかったです。（月がどんな感じで光っているのか）わかりやすくきっちりとまとめていてスゴイなと思いました。おまけも面白かったです。
・月の見え方の名前（上弦や下弦）を紹介しているのは興味深いと思いました。YouTubeみたいな動画を撮影しているのは面白かったです。みんな月の見え方を説明しているのに、説明の仕方がそれぞれ違うことは驚いたし、協力するのも楽しかったです！またこういうのをしたいです。

効果的に活用するためのポイント

この単元の成果物はデジタルノートでの提出とした。デジタルノートは、手の込んだ成果物を作成することにはあまり適していないが、誰もがすぐに使い方を理解でき、協働的な活動をすることに適している。この単元は年間計画ではあまり時間がとれないため、デジタルノートを活用することにした。

時間や成果物の完成度を求めるなら、別のアプリを使うこともできる。学年や単元の特質だけでなく、アプリの設計思想も鑑みて学習に活用している。

空間的に捉えることが苦手な児童には、モデル実験を行うことが効果的です。写真を撮ることで、地球から見た月の形を記録することができ、その結果を基に、根拠を示しながら月の形と太陽の位置関係について説明できます。また、わかったことを整理して動画を作成することは、月に対しての理解を深めます。他の児童の動画を見ることで、まとめ方の工夫等、新たな気付きを得ることにもなります。

学校名（川西町立川西小学校）

小学校
第6学年理科

単元名　水溶液の性質

ICT活用のテーマ　協働的な学びを促すグループ編成のためのICTの活用

本時のねらい

溶けた金属のゆくえについて予想をし、予想を調べるための実験方法を考えることができる

ICT活用のポイント

溶けた金属のゆくえについて学級で話し合い予想を出した後、児童は予想とその「自信度（どれくらいその予想が正しいと思うかの度合いを1から5までの5段階で入力したもの）」をフォームで回答する。集約された予想や「自信度」をもとに、実験のグループ編成を行い、多様な考えの児童が協働的に学べるようにする。

事例の概要

金属のゆくえについて話し合いをさせる。予想を出し合った後整理する。

出てきた予想をもとにフォームを作成して、児童に配布する。

フォームで予想と「自信度」を回答する。

児童の回答（スプレッドシート）を基に、グループ編成を考える。

単元で行われる実験前に、児童一人一人が予想とその「自信度」を学級で共有するため、フォームを活用する。記入後は、スプレッドシートで一覧にして共有する。授業ではこの一覧を基に、更に意見を出し合い、実験への意欲を高められるようにする。

「自信度」という数値での基準を入れることで、活動のグループ編成において、同じ予想の児童同士に加えて、根拠や自信度も多様になるように配慮することもでき、より協働的な学習につなげられるようにする。

児童の予想を入れたフォームの画面

先生の声

予想別にグループを編成して実験をすることはこれまでも行っていた。今回の「自信度」を加えることで、同じ予想をした児童の中でもより詳しく一人一人の思考・判断を把握することができる。そうして編成したグループの中に、同じ予想であっても根拠や「自信度」によって多様性が生まれ、実験中の対話や実験後の考察がより活発になることを期待して取り入れた。

子どもの声

児童の予想
A小さく分解された　B溶けた　C気体になった　D消えた

児童の振り返りより

・初めは自分の予想した意見が正しいと思っていたけど、みんなの意見を聞いてやっぱり「溶けた」なのかなと思いました。
・自分は「溶けた」と予想したけど、他の人の意見を聞くと、「分解された」もありそうだと思う。
・「分解された」と予想しました。いろいろな予想があったので、実験をしてわかったことをみんなが納得できるように考えて、発表したいです。

自信度とともに根拠を一覧にしたことで、より多様な考え方に触れることができ、振り返りでは考えの揺れが生まれました。

効果的に活用するためのポイント

・フォームの活用は、グループを編成するための手段。その前の予想を出し合う場面での話合いを充実させ、どの児童も根拠をもった予想ができるようにすることが大切である。
・フォームで回答を集める授業とグループを編成して実験を行う授業は別の日にすることで活動がよりスムーズになる。
・フォームの回答はスプレッドシートで一覧表示し、児童も見ることができるように共有した。それを見て児童は、自分の考えと同じ部分や違いを探し、考えを深めたり新しい考えを取り入れたりできることで、協働的な学びに繋げていくこともできると考える。

見通しをもって実験を行うには、根拠のある予想や仮説をもつことが大切です。デバイスを活用し、児童から出てきた予想を選択肢としてフォームで入力させることで、全員の予想や根拠を容易に収集し共有できます。異なる予想や、同じ予想でも根拠が違うなど、他の児童の考えに触れることで様々な場合を想定することができ、実験結果から振り返って検討し、妥当な考えを導くことにつながります。

学校名（大淀町立大淀希望ヶ丘小学校）

小学校
第6学年英語科

単元名	He is famous. She is great.
ICT活用のテーマ	デジタルノートの録音機能を活用し、Who is she/he?クイズカードを作る
本時のねらい	世界で活躍する人や有名人などを紹介する言語を用いて、自分が紹介したい人についてクイズ形式で話すことができる

ICT活用のポイント

録音機能を使って自分の話す様子を録ることで、センテンスを繰り返し発音できたり、自分の発音を聞き直すことができる。また、紹介したい人の画像とクイズのカードをセットにすることができる。

事例の概要

学習してきた語彙やフレーズを確認する

紹介したい人について調べる

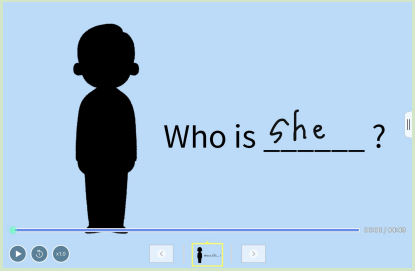
クイズにするフレーズの発音練習をし、録音する

発表する

・デジタルノートでカードに自分の発音を録音することで、人を紹介する語彙やセンテンスを繰り返し発音し、聞き取ることができる事例である。

・クイズを作ることを通して、楽しみながら英語の定着を図る。

・録音機能を使うことで、繰り返し聞くことができ、進んで聞き取ろうとする姿勢を育むことができる。



先生の声

全員の前で英語で発音したクイズを発表できることが理想ですが、恥ずかしくて言えない子も多いのが英語の時間の課題と感じていた。今回、録音機能を活用することで、普段発表できない子も参加し、みんなで聞くことができた。また、担任としては、児童一人一人の発音をチェックできることにも繋がったので、定着の度合いを確認することもできた。

子どもの声

・自分の発音を聞き直すことができたので、発音の確認が自分でしやすかった。
・録音するから、いつもより発音を意識して話そうと思えた。
・友達のカードを聞くことで、自分が使っていない語彙を知ることができた。
・SheとHeの区別が、クイズを作ることを通して学べた。
・録音することで、「もう一度聞きたい！」が言いやすかった。

効果的に活用するためのポイント

このクイズカード作成では、「話す力」と「聞く力」の2つを同時に育成できる魅力がある。しかし、録音機能の使い方によっては、吹き込みがうまくいっていなかったり、聞こえにくかったりしたこともあった。児童に録音させる環境を整えることと、どの距離感で録音すれば適切なのかを事前に児童と話し合って、確かめておくことがねらいを達成できる為に重要であると考える。

デバイスの録音機能を活用して、繰り返し練習できるようにしたことで、児童の学習意欲を高め、全員が活動に参加できるように工夫しています。

恥ずかしさのため学習できないといった時間のロスを回避する工夫は大切で、AIを相手に1人でデバイスに向かって発音の練習をするといった未来はもうすぐそこまで来ています。本実践はそういった活動につながる大切な取組です。

学校名（大淀町立大淀希望ヶ丘小学校）

小学校
第6学年
総合的な学習の時間

単元名　**平和学習**

ICT活用のテーマ　デジタルホワイトボードでクラスごとに意見を出し合い、深める

本時のねらい

修学旅行を終えて、平和報告会で伝えたいことは何かを話し合い、深める

ICT活用のポイント

学年で集まらなくても、デジタルホワイトボードで意見を共有することで、学年として平和報告会に向けて意見を共有し合うことができる

事例の概要

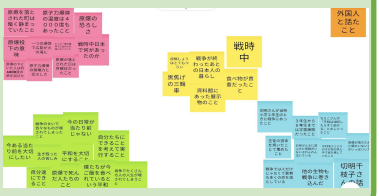
修学旅行の振り返りをする

本時で考えることを伝える

クラスごとにシートやテーマを変えて、意見を出し合う

本時のまとめをする

・同じ場所に集まっていなくても、クラスごとに考えたことを、比較し、全員が一番伝えたい思いを整理することができる事例である。
・児童の考えの視覚化がすぐにでき、他の意見を見ることで、深めて考えられる。
・似ているものや、違うものなどを、まとめたり、離したりして、1つの画面上で、全員で整理することができる。



先生の声

平和学習においては、それぞれが思った感情をそれぞれの言葉で表している児童が多いように見られた。だからこそ、デジタルホワイトボードに書き込むことで、他の子の意見をたくさん見ることができ、連想しやすいからこそ、微妙なニュアンスの違いが、引き出しやすかった。言葉では言い表しにくい部分も、児童の意見によって、児童同士で整理していく様子が見られた。

子どもの声

・意見の整理がしやすい。
・クラスが離れていても、隣のクラスの子が何を考えているか分かる。
・みんなの思いが書かれているから、みんなに共通している気持ちなどがよく分かる。
・言葉で表しにくくて、書くことに悩んでいたけれど、みんなの付箋から、想像して、書くことができた。

効果的に活用するためのポイント

デジタルホワイトボードを活用し、全員の溢れる思いを、全員で感じることができた。一方で、たくさん意見が出るからこそ、ゴールをしっかり決めておかないといけないと感じた。収集がつかなくなったり、1つの意見が深まって偏りが出たりしている様子が見られたからである。そこで、シートには、考える目的を必ず書き込んでおき、いつも児童が本時のゴールを意識して考えられる環境を作っておくことが必要である。

充実した総合的な学習の時間を実現するために「探究的な学習」の一層の充実が求められています。探究的な学習の学習過程の中で本時は「整理・分析」に当たります。デジタルホワイトボードの活用によりKJ法的な手法を用いた意見の整理・分析を容易に行っています。また、学級の垣根を越えた学年の範囲での意見の交流もデバイスの利活用で実現しています。

学校名（川西町立川西小学校）

小学校
全学年特別活動

活用場面　フレンド活動（縦割り活動）

ICT活用のテーマ　共同編集機能を活用し、相手に伝わる資料を作成する

活動のねらい

クイズの回答を協力して考えることを通して、異学年で交流する

ICT活用のポイント

複数人で作業をすることを可能とする共同編集機能を活用し、様々な視点に立って分かりやすい資料を作成する

事例の概要

班ごとに６年生がクイズのアイデアを出し合う。

共同編集機能を活用してクイズ作成する。

縦割り活動の実施

本校では、1年生から6年生を16の班に分けたフレンド活動（縦割り活動）を年4回実施している。第1回目の活動では、初めて縦割り班で児童が集まるので、みんなで楽しんで交流できる遊びを6年生が考えた。

今年の6年生は学年の話合いで、「下級生でも楽しめるクイズをつくろう」ということを決め、スライドの共同編集機能を使い、班のメンバーそれぞれが分担してクイズの作成を行った。共同編集者には教員も入り、それぞれの進捗状況を確認しつつ進めた。

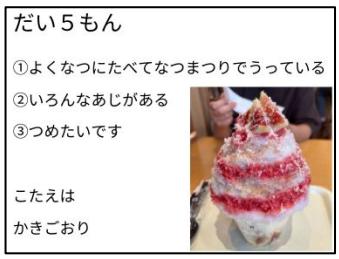
先生の声

クイズの作成を共同編集で行うことで、短時間で作ることができる。作成にかかる時間を減らすことができる分、クイズの内容についての話し合いの時間を確保することができた。

また、6年生にとっても学級の垣根を超えて縦割り班で準備をすることで学期はじめの時期（5月）に友達と関わる機会を自然に作ることができた。

子どもの声

・共同編集を使うと、思っている以上に早くクイズを作ることができて便利だと思いました。
・問題を作る人や答えの画像を集める人などの役割分担ができたのでスムーズに活動できまた。当日は1年生が5年生とクイズの答えを一緒に考えていて、どちらも楽しそうでした。
・司会や準備をして、今までの6年生もしてくれていたんだなと思い、これからも頑張ろうと考えました。
・アニメーションの種類がたくさんあるので、他のものも試してみたいです。



児童が作成したスライド

効果的に活用するためのポイント

共同編集者は活動班のメンバーに加えて教員も入っている。クイズ作成の進捗状況を管理しやすく、また支援も行いやすかった。

クイズ作成に関わって、ヒントを順番に表示するためのアニメーションの付け方や答えをわかりやすくするために画像を挿入する方法など、情報発信に関する技能面での指導を行うことで、今後の学習などに役立つスキルを身に付けることができる。

低学年に分かりやすく伝えるために、情報を整理し、提示するという情報活用能力を育てることにつながる活動です。共同編集により、様々な視点から問題を作成でき、協働的な学びが実現されている取組です。

縦割り班等でのICT利用はまさにデバイスの日常使いなので、本実践のように児童生徒の発想を生かし、自由度を高くして取り組ませることが大切です。

学校名（大淀町立大淀桜ケ丘小学校）

小学校
特別支援学級
自立活動

学習内容　自己紹介の練習をしよう

ICT活用のテーマ　自撮りによる見直しを行い、課題の改善にチャレンジしよう

本時のねらい
Aさん：できている自分を理解し、自信をつける
Bさん：伝えたい気持ちを様々な方法で表現する
Cさん：自分の話し方の特徴について知る

ICT活用のポイント

動画で確認することにより、客観的に自分の発表の良い点や課題に気づき、自信をもったり、改善点を考えたりすることができる

事例の概要

操作方法の説明

自撮り・見返し・改善を繰り返す

自己紹介をする

ふりかえり

・他校との交流会で行う「自己紹介」に向けて、様々な方法を用いて意思を相手に伝える練習をする学習である。
・1人1台端末の動画撮影機能を使用して、自分の発表を撮影し、見返して改善点を考え、練習を繰り返し行った。
・納得のいく発表ができたら、動画を先生に提出し、一緒に視聴しながら、良かったところ・改善できそうなところを確認した。

先生の声

人前で話すということに緊張してしまう児童や、自信をもてない児童も、1人1台端末を使用することで繰り返し自主練習を行うことができた。

自分の姿を見たり、声を聞いたりすることは、児童が自ら改善していく手立てを考えるのに有効だった。

子どもの声

Aさん「俺ってこんなにはっきり話せてたんや！」と自分の話し方に自信をもつことができました。
Bさん「ちょっと自分で練習してくる！」と一人で別室に行って自主練習していました。
Cさん「ちょっと早くて聞きにくいな…もう少しゆっくりと話した方がいいかな」と、自分で課題を自覚し、改善していくことができました。

効果的に活用するためのポイント

「自己紹介をしている自分を客観的に確認する」ツールとして使用しました。聞き取りやすい声の練習、視線の練習など、目的を絞って繰り返し何度も確認できることも、1人1台端末を使用することのメリットである。
マイクの音量を調節することで、周りに他の児童がいても気にならない児童であれば、2mぐらい距離をとることで同じ部屋でも練習ができそうだと感じた。
今回は、児童自身がリアルタイムで自己紹介をした。児童によっては、撮影した動画や、文字・絵などで紹介したスライドを自己紹介に代えるなど、多様な方法で自己表現をすることができる機会をつくっていきたい。

ICTを活用して、自分自身を客観的に捉えてそれぞれの目標を達成するための内容が設定されています。練習の過程で、指導者と確かめながら進めることで、自らの課題を意識しながら練習を積み重ねています。課題を自ら発見し、それを乗り越えようとする、主体的な学びにもつながる実践です。
一人一人の障害の状態や特性、社会経験等が異なるため、個々のもてる力が高められるよう、適切な補助用具の選択や指導上の工夫をすることはとても大切です。

学校名（御所市立大正中学校）

中学校
第1学年社会科

単元名　アフリカ州

ICT活用のテーマ　Chromebookを効果的に活用しよう

本時のねらい

アフリカ州の課題解決のために必要な支援をSDGsの観点から考える

ICT活用のポイント

アフリカ州の課題の見つけ出し、班活動での討議・分析、課題解決に向けた見通しの共有までChromebookを活用する。フォームで回答しながら振り返る。

事例の概要

前時を振り返る

Chromebookで調べる

デジタルホワイトボードで意見交換する

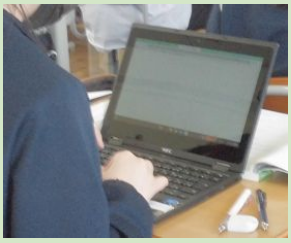
フォームで回答し振り返る

① RHP（ﾚｲｼﾞﾝｸﾞﾊﾝﾄﾞﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ〈授業者は発問方法を工夫し、生徒は手をあげて意思表示する〉）により、前時を振り返る。

② 教科書に加え、ICTを活用しながら、様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

③ デジタルホワイトボードを使って、調べた内容を出し合いながら班で意見交換する。

④ フォームを使ってアンケートに回答し、本時を振り返る。



先生の声

教科書の内容だけでは自ら考えることをなかなかしなかった生徒が、ICTを活用することで、主体的に調べ学習や意見交換などをすることができた。

ICTも活用した対話的な活動により、学びが深まっていったと感じる。習得した知識や情報をもとに、自分にできることを考える機会となった。

子どもの声

教科書に載っている内容以外のことも調べることができた。知らないことがたくさんあって新しい発見もあった。だから面白かった。

意見交換の時にデジタルホワイトボードを使った。みんなの意見を見ながら言い合えた。

SDGsのことも少し意識しながら調べたり、話をすることができた。

けっこう分かり合えたと思う。

いつもより発表ができて、色々なことがいつも以上に分かった。次も頑張る。

効果的に活用するためのポイント

教科書の内容を中心に学習活動を進めることと並行して、ICTを活用しながら、自ら興味関心をもって、多面的・多角的に考察・思考・判断・議論などができる力の育成を図る。

たくさんの情報を正しく読み取り、取捨選択できる力の獲得を目指す。

ICTによる仕掛けから、未知の状況にも対応できる知識・技術の習得を目指す。

今後は他校や他校種とのオンラインでの繋がりや広がりもできるよう工夫する。

デバイスの導入によって活動の幅が広がり、情報活用能力が育成されている重要な活動です。たとえば、机の移動をさせずバラバラにいる仲間とクラウド上のファイルとチャットのみで交流する活動も考えられます。それは、臨時休業等の非常時の対応にもつながります。学習スタイルはどちらが良いというものではなく、オンラインのみの交流も実際に机を合わせた交流も、いずれも経験させることが大切です。

中学校
第1学年数学科

単元名　資料の散らばりと代表値

ICT活用のテーマ　1人1台端末で、結果の集計やヒストグラムの作成を行い、目的に応じた適切なヒストグラムに表す

本時のねらい

代表値やヒストグラムなどを用いて資料を考察し、傾向を捉え説明する

ICT活用のポイント

1人1台端末で、アンケート結果の集計や階級の幅の異なる複数のヒストグラムを作成し、考察する

事例の概要

問題解決の見通しをもつ

資料を整理し、その結果を考察する

分析・考察したことを説明する

成果をレポートにまとめる

○資料を整理し、その結果を考察する。
・生徒が学習支援ソフトから資料のデータをダウンロードする。
・表計算ソフトで中央値や平均値を求めたり、階級の幅の異なるヒストグラムを作成したりするなどしながら考察する。

○分析・考察したことを説明する。
・分析の際に作成したデータを共有フォルダに保存
・ファイル共有機能を活用し互いのデータを閲覧しながら、考察したことを説明する。

○成果をレポートにまとめる。
・文書作成ソフトでレポートを作成し、学習支援ソフトで提出する。
・教師は、提出されたレポートを評価し、生徒へフィードバックする。

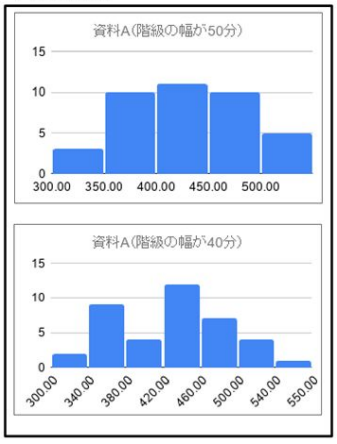
先生の声

・ICT端末で、階級の幅の異なる複数のヒストグラムを作成することができ、データの分布の傾向を的確に読み取ることができるようになった。
・表計算ソフトを活用したヒストグラムの設定の試行錯誤により、設定でヒストグラムの見え方が大きく変わることを生徒が実感を伴って理解できるようになった。

子どもの声

・分析の結果を交流するときに、ヒストグラムをICT端末で見ながら説明を聞くことができて分かりやすかった。
・ヒストグラムの作成に時間がかからないので、資料を分析する時間が多くできてうれしい。

表計算ソフトで階級の幅の異なるヒストグラムを作成



効果的に活用するためのポイント

・生徒がヒストグラムの階級の幅や最初の値の設定を試行錯誤する場面を設定する。
・生徒の試行錯誤や分析の時間を確保できるよう、必要なデータが既に入力された表計算ソフトを共有する。
・表計算ソフトによるヒストグラムの作成に時間がかからないよう、単元を通じて表計算ソフトを活用する。

ICTを活用すると、アンケートの集計やグラフ作成を短時間で行うことが可能になります。また、階級の幅等の変更など目的に応じた適切で能率的なデータの集め方や、合理的な処理が可能になります。データの傾向を捉え、説明する時間を多く取ることで、データの傾向を読み取り、批判的に考察し、判断する力を身に付けることができる好事例です。

学校名（奈良教育大学附属中学校）

中学校
第1学年英語科

単元名　School life in the U.S.A

ICT活用のテーマ　What is your ideal life?

本時のねらい

海外の学生や友達の一日のスケジュールを知り、自分の理想とする生活について考え、伝えることができる

ICT活用のポイント

オンライン上の掲示板に、イギリスと韓国の中学生、そして本校生徒が一日の過ごし方が分かる内容の記事を投稿し合う。掲示板投稿という形であれば国と国の物理的な距離や時差の問題、クラスの壁を超えて交流することが出来る。

事例の概要

前時の復習

自身の生活を発表する

海外の生徒の投稿を読む

自身の生活を投稿する

・現在進行形の文やアメリカでの中学生の一日の生活を教科書で学習する。
・自分の一日の生活を伝えるための画像を検索し、スライドに貼り付ける。そしてShow and Tell方式で画像を提示しながらグループで一日の生活について英語で伝え合う。
・次にオンライン上の掲示板に投稿されているイギリスと韓国の中学生の一日の生活を読み、自分たちの生活との共通点と相違点を知る。
・海外の学生や友達の表現を参考に、より自然な英語とすることを意識して、自身の生活ついてオンライン上の掲示板に投稿する。
・最後に、理想とする生活と現在の生活を比較して自身の生活を見つめなおす。

先生の声

本校の研究テーマでもあるwell-beingを高めるための授業を実践した。生徒たちは多忙で心にゆとりがない。夕方を家族と過ごすイギリスの学生や深夜まで塾に行く韓国の学生と交流しながら、自己の生活を見つめなおし、日々幸せを感じられるような理想とする生活について考える機会を作った。

子どもの声

【アンケートより】
・イギリスの学生が6時に夜ご飯を食べていて驚きました。しかも家族がそろっているのもすごいと思いました。日本では考えられませんが、毎日そうやって過ごせたら良いなと思いました。
・韓国の人たちの中には、夜中まで勉強しているのが当たり前という人がいて、健康面が心配になりました。でも自分も夜中まで起きていることがあるので同じだとも思いました。将来のための勉強も大事だけど、毎日を大切にしたいとも思いました。
・韓国や日本の生徒は毎日夜まで勉強しているけど、イギリスの人たちと比べて学力がどうなのか気になりました。

効果的に活用するためのポイント

生徒の端末はクラスや学年、学校、地域、国というあらゆる物理的な壁を超えることを可能にし、その壁を超えて様々な人や情報につながれるようにしたいと考えている。今回はクラスと国の壁を超えてつながる機会を提供した。
生徒に提示した注意点は、「投稿は気軽にできてしまうからこそ失敗が起きる」ということ。面白おかしい画像や、配慮の無い適当な文が人を不快にさせることがあることを確認した。そのため、投稿までには多くのインプットとアウトプットの段階を入れた。

海外の事情にデバイスを介してアクセスできるということを学び、そこから実際に投稿するというアウトプットまで踏み込んでいる点が重要です。
海外の同年代の子供たちの実際の生活を知り、自らの生活と比較することは生徒にとって興味深いことです。自分達の事も伝えたいという意欲を引き出し、情報発信の活動にもつながっています。情報モラルも適切に取り上げていて、生徒は知識としてではなく実体験として学ぶことができています。

学校名（河合町立河合第一中学校）

中学校
第3学年社会科

単元名　株式会社をつくろう

ICT活用のテーマ　社会に出るための第一歩

本時のねらい

株式会社の仕組みについて知る

ICT活用のポイント

株式会社や起業の仕組みについて学び、自分たちで考えた会社のプレゼンテーションを作成する

事例の概要

起案

班内でのプレゼンテーション

班の代表会社のプレゼンテーション

株主総会

・株式会社の仕組みや、起業について学ぶことで、経済活動の仕組みを知る。起業のシミュレーションを行うことで、社会のニーズを探るきっかけとした。
・班内で「社長」「広報」「販売代表」「製作代表」と役割を決めて会社の新商品説明会のプレゼンテーション資料を作る。
・社（班）内で話し合って1株の値段を決める。
・起業のシミュレーションにより気付いたことや、出資側として考えたことなどを振り返り、まとめる。

先生の声

・ICT機器を活用してプレゼンテーションを作成するという指示のみで、使用するアプリケーションの指定はしなかった。生徒たちは、スライド・デジタルノート・画像編集アプリなどで作成した。
・役割を分けて、同じファイルを共同編集で作成することで、社会に出て働く上で大切なメンバーシップ精神を育んだ。

子どもの声

・自分は社長だったから、他のメンバーの仕事を任せることも多かった。その分、もっと他の企業の商品や、材料費などを調べたらよかった。
・起業するって、考えることが多いし、プレゼンでまとめてみんなにわかりやすく説明するのが難しかった。自分の考えだけじゃなく、他の人が考えてそうな意見も取り入れたらよかった。
・いろんなことが難しく、社会の厳しさが分かった。誰にもない発想力をもつことが大事だと思った。

効果的に活用するためのポイント

ICT機器を活用することで、同時に作業の共有ができることが魅力。編集中にわからないことや困ったことは、基本的には生徒同士で調べて解決させる。ICT機器の操作について、授業者は支援者の立ち位置としてプレゼンテーションの作成を行う。試行錯誤して使ってみて、はじめてわかることがある。使用するアプリケーションを指定しないことで、仕上がりの多様性が生まれる。

シミュレーションとICTは非常に相性が良く、より実社会での活動に近いものを体験させています。目的に合ったツールを適切に選択して課題を解決しながら情報活用能力の育成につなげている実践であり、クラウド上のファイルを共同編集することで、意見を出し合いながら協働的な学びができるよう工夫されています。
チャットを活用することによりさらなる交流の深化も期待できる実践です。

学校名（平群町立平群中学校）

中学校
第３学年
総合的な学習の時間

単元名　修学旅行を機会とした平和学習

ICT活用のテーマ　ICTを用いて文化祭で学習成果を発表しよう

本時のねらい

他者に自分の考えが伝わるように目的に合わせて情報を分類したり、効果を意識して表現方法を組み合わせることができる

ICT活用のポイント

デジタルノートを活用し、各自で作成したデジタルノートを班ごとにまとめて班発表や文化祭での学習成果発表に用いた。

事例の概要

各自でデジタルノートに学習のまとめスライドを作成する

各班で発表用のスライドに編集する

各班が各クラスで発表

学年の代表が文化祭で全校生徒に向けて発表する

・平和学習を通して感じた関心をもとにそれぞれが課題を設定したことをまとめたスライドをデジタルノートで作成することで、学習の個性化がはかられた。
・他者に自分自身の考えが伝わるようにするためには、情報をどのように分類すればよいか、まとめればよいかを考えさせ、効果を意識して表現方法を組み合わせることで協働的な学びに向かった。

先生の声

近年、本校では、コロナ禍もあり、対面での一斉に集まった学習成果発表を行うことができなかった。学びを後輩に伝えるという目的を持った今回の発表は、後輩たちにとっては、学習ガイダンスとなり、３年生にとっては、学びのポートフォリオ（軌跡）として価値のあるものとなった。ICTを用いることで自分自身の考えもまとめやすかったと考えられた。

子どもの声

文化祭での学習成果発表を行った一人の生徒が「こういう発表が大切だと思う」と言った。また、ある生徒のまとめの作文に書いてあった「私たちはこの過去の出来事や人々から受け取ったバトンを未来へつなぐ役割があります。そのためにきちんと自分の考えを持ちその考えを行動につなげたい。」と思っていたことがICTを用い、効果的に具現化できた。

効果的に活用するためのポイント

ICTを活用することで、個別のスライド作成場面であっても、生徒同士が相互に参照しながら学習できる。これにより自然に話合いが生まれ自身の考えが深まったり、効果的な表現方法について協働的に学んでいくことができた。主体的な学びが行われているときは、学習の個別化と協働的な学びは、相反するものではなく相乗効果も得られるものだと思った。

席を立って他の生徒の作品を見に行くといった活動は、時間と空間の制約が大きく、仲の良い友達の作品だけを見に行く傾向があります。
生徒を人ではなく作品に集中させているとても素晴らしい実践です。生徒は共有されたスライドをパラパラとめくり、気になった作品を集中して見ることになり、通常誰の作品かは後から気付いていきます。友達の新しい面の発見など、作品を通して新たな交流が生まれる可能性がある好事例です。

学校名（奈良教育大学附属中学校）

中学校
特別支援学級（知的障害）
特別活動

単元名	オンライン交流で奈良県や学校の紹介をしよう
ICT活用のテーマ	スライドやクイズ作成アプリ等を活用して奈良県や本校の紹介資料を作成する

活動のねらい

オンライン交流に向けて、協力して奈良県や本校について調べ、紹介する内容を決める

ICT活用のポイント

奈良県や学校の紹介をするため1人1台端末を活用し、検索したり資料を作成したりする。内容や表現について共同編集するなかで、自分以外の見方や意見を知り、折り合いをつけたり、発展させたりすることができる。また聴き手を意識し客観的な観点で活動する助けにもなる。

スライドやクイズ作成アプリの活用により、発表することに苦手意識のある生徒も積極的に活動できる。

事例の概要

交流で伝えたいことを考える

検索したり、意見を出し合ったりする

相手の立場で考え直し完成させる

オンライン交流で発表し聴き合う

・オンライン交流に向けて相手校（九州・特別支援学級）に伝えたい内容について意見を出し合う。
・相手校〔＝他者の視点〕を意識して、奈良県内を見学した経験を生かし奈良県の魅力や、本校のよさを伝えられるような内容を考える。
・各自の1人1台端末で検索したり、デジタルホワイトボードで共同編集したりする。
・お互いに重複や偏りがないかを見比べたり、視聴する側、回答者の立場〔＝他者の視点〕に立って、より分かりやすい表現や面白い回答の選択肢を工夫したりして、スライドやクイズを完成させる。
・オンライン交流する。

先生の声

1人1台端末で検索をしたり、共同編集したりすることには慣れてきているが、今回はその発展として成果物を交流に用い、楽しみながら相手に知ってもらいたいという、「相手の立場に立つ」という視点を入れて取り組んだ。電子黒板の活用は、大画面のため客観的に確認をしながら作業でき、当日の発表も、伝える文言を画面上で共有できるので臆することなく活動できていた。

子どもの声

【交流後の感想より】
・実際に見学に行ったところだけど、奈良県のことを調べてみると、まだ知らなかったこともあって勉強になったし、友だちにも教えたり、同じ事を思ってたりして楽しかった。
・どんなことをクイズにしたらおもしろく思ってくれるのかなぁと考えるのが楽しかった。
・交流のときに、自分が発表したいことばが画面に出ているので緊張したけど言いやすかった。
・相手のクイズもおもしろかったので、きっといろいろ考えてくれたのだろうなぁと思って、交流のために準備してくれたことがわかってうれしかった。
・九州は遠いけど、実際に行って会いたくなった。
・他の学校ともオンライン交流してみたいと思った。

効果的に活用するためのポイント

学習場面に限らず、日常的に利用することで、検索や共同編集など発展的な場面で「ツールとして」活用することができる。それにより、学習の内容を深めることに集中することができる。また、交流や発表の場面では、自信をもって参加し、苦手意識を軽減する心理的支えにもなる。さらに学習や行事などの活動の幅も広がり、自立活動にも活かすことができる。

障害の特性による様々な困難さを、ICTの活用によって軽減でき、より主体的に活動できるという実践的な検証を、知的障害特別支援学級でも蓄積し共有されることが望まれる。

自分や相手の意見が視覚化され、様々な意見に気付き、合意形成を図りつつ、役割分担をした実践です。成果物を何度も修正できるため、相手の立場に立って見直し、わかりやすい発表にまとめています。

日常生活をICTを利用しておくることが当たり前となっている中、手段として積極的に活用できるようになるための事例です。